

**●フレイル予防事業の展開**

7月から、公衆浴場を活用したフレイル予防事業を開始しました。今年度は8カ所の公衆浴場で、117回開催します。今月、フレイル予防のスマホアプリを利用できるようにします。趣味や関心、健康状態に合わせて、教室やイベントなどの情報を配信し、高齢者の社会参加を後押しします(3面参照)。

**新型コロナウイルス感染症対策**

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、日常生活に戻りつつあるなかで、都内の定点医療機関当たりの患者報告数は、増加傾向にあります。保健所は、5月8日から継続してきた透析患者や妊婦等の入院調整、コールセンターを9月末で終了する予定ですが、区民に対する相談支援は引き続き行っています。

9月20日から、生後6カ月以上の希望する全ての方に、オミクロン株XBB対応のワクチン接種を行います。引き続き、練馬区モデルで実施します。

**まちづくり施策****●石神井公園駅南口西地区市街地再開発事業**

石神井公園駅南口西地区市街地再開発事業は、都市再開発法に基づき、権利変換計画の認可取得に向けた手続きを進めています。再開発組合は、7月に計画を作成し、8月から9月にかけて縦覧を実施しました。認可取得後、地区内に居住・営業している方の移転、既存建物の除却を行い、6年度の再開発ビルの工事着手を目指します。区は引き続き、円滑な事業実施に向けた取組を支援します。

補助232号線の再開発事業区域から富士街道までの区間については、用地取得に必要な調査を実施するなど、関係権利者との協議を更に進めます。

**●西武新宿線の連続立体交差事業**

西武新宿線の連続立体交差化は、鉄道と交差する補助230号線や武蔵関駅交通広場など一体的に事業を進めています。更に、補助135号線の青梅街道から新青梅街道までの区間についても、事業化に向け、年内に現況測量に着手します。

**●稲荷山公園の整備**

長期プロジェクトである稲荷山公園の整備に向けて、来月「稲荷山公園の整備に関する専門家委員会」を設置します。造園や動植物など各分野の学識経験者の意見を聴きながら、自然環境の保全方法なども含め、段階的な整備のロードマップ作成に向けた検討を進めます。今後も節目ごとに地域の皆様への周知を行い、ご意見を伺いながら事業を進めます。

**経済、都市農業施策****●スマート商店街プロジェクトの実施**

スマート商店街プロジェクトの一環として、先月28日、練馬区商店街連合会と連携し「商店街デジタル化セミナー」を開催しました。デジタル化推進アドバイザーによる、先駆的な取組事例の解説や質疑応答などを行いました。18商店会31名が参加し、「デジタル化の具体的なイメージが掴め、参考になった」などの声を頂きました。引き続き、商店街のデジタル化を進めます。

**●全国都市農業フェスティバル**

11月19日の全国都市農業フェスティバルまで、2カ月半となりました。招聘した国分寺市、松戸市、名古屋市、京都市をはじめ、全国から24の自治体が参加します。世界都市農業サミットで確認した都市農業の魅力と可能性を、各都市の皆様と一体となって発信します。

開催前日には、被招聘都市の農業者やJA職員、行政担当者と、練馬区の都市農業の視察、知見や経験等を学び合う意見交換会を実施します。

フェスティバル当日は、光が丘体育館で、区や被招聘都市の農業者によるトークライブを実施します。午前は「ファンの掘り起こし」、午後は「営農意欲の向上」の2部構成とし、今月中に入場者の募集を開始します(3面参照)。

光が丘公園では、京野菜の収穫や多肉植物の苔玉作りなどを体験できるブースを設けるとともに、練馬区と24都市によるマルシェで、各都市特産の農産物や加工品などを販売します。更に、各地の農産物を使った様々なメニューを提供するキッチンカーが出店します。

機運醸成にも力を入れています。既に、農業者の顔写真入りのポスター、のぼり旗を区内全直売所に設置しています。モザイクアートを作成するため、7月から、区民の皆様の写真投稿を募集しています。10月には、練馬総合運動場公園で、子どもたちが「農」をテーマに飾り付けたランタンが夜空を彩る「ねりまランタンナイト」を実施します。

開催直前には、区内経済団体・商店会と連携し、新たに作成するポスター、のぼり旗を設置します。区内全駅と池袋駅などでの広告を掲出するとともに、区役所や光が丘IMAなどのモニターでPR映像を放映します。

また、交通機関にも協力を頂いています。西武鉄道は、10月から3カ月、練馬産野菜を使ったコース料理を提供するレストラン電車を運行します。フェスティバル当日は、国際興業バスによる「収穫体験とフェスティバル会場を巡る区民限定ツアー」を実施します。

参加自治体や区内農業者、JA東京あおばと連携し、区民の皆様、区議会の皆様のご協力を頂きながら、開催に向けて全力で取り組んでいきます。



区役所本庁舎直結のやすらぎ歩道橋にフラッグを設置

**おわりに**

区長に就任して10年目になります。この間、全国自治体を先導する多数の政策、「練馬区モデル」を実現してきました。

区独自の幼保一元化施設「練馬こども園」の創設、保育所持機児童ゼロの3年連続達成、街かどケアカフェの設置、特別養護老人ホームの増設、病床1,000床の大幅増、順天堂練馬病院への救命救急センターの開設など、福祉・医療は飛躍的に充実しました。大江戸線の延伸は、私が小池都知事と直談判して、着工に向けて具体的に動き出しました。西武新宿線の高架化、東京都練馬児童相談所の開設など、練馬区が推し進めてきた重要な政策も実現に向かっていきます。6月には、ハリポッタースタジオツアー東京がオープンしました。行く行くは年間300万人、うち3割はインバウンドの来場が想定されています。まさに練馬区の世界デビューであり、地元商店街の活性化、雇用の創出にも大きく寄与しています。今後の入場者数の

増加等に伴い、更なる波及効果が期待されます。

こうした政策に加えて、文化芸術の振興にも力を尽くしてきました。文化芸術は人間が人間である証であり、私たちの存在を根源で支えるものです。みどりの風吹くなか、誰もが優れた文化芸術を楽しめ、未来に夢を描くことができるまちを創りたい。区長として変わることのない志です。

今年で6回目となる「真夏の音楽会」を先日開催しました。都心に行かなくても、質の高い文化芸術を身近で楽しめるイベントとして、区民の皆様に定着しています。今回は、「魔法の世界」をテーマに、大谷康子さんとNHK交響楽団による演奏を楽しんで頂きました。大谷さんには、11月3日に練馬総合運動場公園で初開催する「ねりまの森の音楽祭」をプロデュースして頂きます。優れた音楽が、ホールから地域に出ていく、練馬区では初めての例になります。

平成28年に初めて開催した「みどりの風 練馬新能」もすっかり定着しました。松の風文化公園の豊かなみどりのなか、野村万作さん、梅若万三郎さんなど、日本を代表する演者による優美で幻想的な新能が、23日に7回目を迎えます。来年3月6日には、武蔵大学大講堂で、野村家3代にわたる狂言の伝承をテーマに、上映会とトークショー(仮称)「野村万作から萬斎、裕基へ」を開催します。



過去のみどりの風 練馬新能の様子

区立美術館は、これまでも独創的な優れた企画により、内外から高い評価を得てきました。現在、「まちと一体となった」、「本物のアートに出会える」、「図書館と融合する」という、新しい発想による美術館にリニューアルするため、「現代の富士塚」をイメージした個性的な建築物の基本設計を進めています。7年度に着工し、9年度に開館する予定です。

今後も、新しい発想により、誰もが楽しむことができる、練馬ならではの文化芸術を花開かせるべく、努力していく考えです。

我が国は、歴史上経験したことのない、少子化という国家的危機に直面していますが、国の危機感とは全く伝わってきません。人口減少に伴う市場規模の縮小や労働力の不足に加え、技術革新の遅れなどもあり経済は永く低迷しています。財源を国債に依存する財政運営を永く続けた結果、国の債務残高はGDPの2倍を超え、政策選択の幅が狭められています。新型コロナとロシアによるウクライナ侵略の直撃を受け、状況は更に悪化しています。そうしたなか、法人税を中心に税収は増加傾向にありますが、日本経済の実力を反映したものなのか、強い疑念を抱いているのは私だけではないと思います。

区を取り巻く環境は極めて不透明ですが、こうした状況にあっても、着実に区政を運営することが私の責務です。これからもあらゆる分野で工夫を重ね、「練馬区モデル」を展開し、区民の皆様にお約束した「改革ねりま第Ⅲ章」を必ず成し遂げる。固く心に決めています。皆様のご理解、ご協力をお願いします。